



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第32回例会(3月8日)  
平成25年3月15日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)  
FAX(653)5622  
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭  
幹 事 佐藤 重昭  
会 報 福田 荘介  
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次

2012-2013年度

## 地球環境保全ポスター表彰式

会長 藤村文昭

当クラブの「環境保全」ポスター公募は、この素晴らしい地球をいつまでも美しいまま残したいという思いから、環境問題が大きく取りざたされる以前より長年にわたり取り組んできた事業の一つです。先達の方々の思いを大事にこれからも続けて参ります。

### 受賞者のことば



(左から) 銀賞 阿部 彩海様・金賞 奥寺 萌様  
銅賞 小田島凌一様

#### ●金賞：「警鐘の視線」奥寺 萌様

この作品は、森の中にたたずむ鹿を大きく配置した作品ですが、よく見ると目の部分には人間が森林を伐採する風景が映し出されています。そこに警鐘の視線というメッセージを込め



金賞作品

て表現しています。専門学校に入学して初めて制作した環境テーマポスターとなりましたので、今回の受賞を励みに今後も精進を重ねたいと思っております。この度はこのような賞を頂き本当にありがとうございました。

#### ●銀賞：「はなみる地球」阿部彩海様

私は写真が好きで、久慈に旅行した際にひまわりを撮影しました。空に映えるひまわりの写真は機会があれば作品にしたいと思っていまし

た。今回機会があり環境ポスターとして制作いたしました。「ひまわり」で地球に生きる生物も人と同じく環境を心配している姿を描きました。先日卒業式を迎え、春からは念願の写真の撮影・デザインの仕事に盛岡で勤務をします。今回はこの様な素晴らしい賞を頂きありがとうございました。

●銅賞：「激変する氷の大自然」小田島凌一様  
昨年同様、銅賞を頂きました。この事業は

30年ほど続いているようですが、このうち25年以上は出品し、賞は7,8回頂いていると思います。住まいは釜石で自宅も店舗も被災し、現在は仮設店舗で看板屋を営んでおります。仕事上はコンピューターを使いますが、私の作品はすべて手書きにこだわって作っております。この作品は温暖化の深刻さを、親子のシロクマがかすかに残った氷の塊にしがみついている様子で現しております。本日はありがとうございました。



## 講評

岩手デザイナー協会 会長  
村上 由美子 様

盛岡ロータリークラブの皆さま、はじめまして。昨年4月の改選を経まして、5月より岩手デザイナー協会の会長を務めさせていただいております村上由美子と申します。

かねてより、当協会の活動に対しましては、様々な御支援をいただきまして、心より厚く御礼を申し上げます。この場をお借りしまして感謝の思いをお伝えするとともに、今後とも、変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2012年度・第65回岩手芸術祭デザイン部門の環境課題におきまして、応募作品32点の中から、金賞・銀賞・銅賞に輝かれた皆さま、本当におめでとうございます。それぞれの作品につきましては、後ほど講評させていただきたい

と思います。

ところで皆さまは、この冬を、どのようにお過ごしになられたでしょうか。地球温暖化が進んで深刻な問題だと伝えられてきている一方で、この冬の厳しさにも耐えて、ようやく少し気温も緩み、安堵感に包まれる今日この頃です。

こうして季節が巡る中、春先は特に生きているという実感が強く感じられる季節です。たとえば二十四節気の一つ・啓蟄（けいちつ）は、冬眠していた虫たちが春の気配を感じて巣穴から出てくる時季を表すそうですが、ことしは3日前の3月5日が、それに当たる日だったようです。

もちろん、虫だけではなくクマのような動物も、冬眠から目覚めて動き出します。しかしながら、そうした生き物の世界も私たちの人間界と同様に、さまざまな困りごとを抱えております。たとえば、餌の確保がままならない。生きていく場所も狭まっていく。そして、危機が進行していると気づかされるのは、しばしば里にまで下りてきて、人間と遭遇してしまうクマたちの数の多さです。ここ岩手に限らず全国的に、

昨年と同様にクマ出没のニュースが日常茶飯事のこととなるのかどうか、懸念は尽きません。さまざまな命を育む、環境を表すバロメーターの一つとして、クマたちを巡る生態系も気がかりな事になっています。

たまたま、ご縁がありまして5年ほど前に環境省の地球温暖化対策に関わる[エコ8カップ]という事業にデザイナーとして携わったことがあります。

「二酸化炭素の排出抑制を図り、マイマス8%の数値目標を達成しよう」というキャンペーンでしたが、スタッフとの共同作業を通して強く感じましたのは、命ある存在同士がうまく調和して生きていける環境というのは、どうすれば実現できるのだろうか?という根源的な問いかけでした。すこやかな「共生」、すなわち共に健康的に生きていくことを叶えるために何ができるか、何を為すべきか、ということです。地球全体を守るという次元で、もちろん東日本大震災や原発災害からの復興も含め、持続的な社会の在り方を巡って、人間の英知が問われ続けている気がしてなりません。

このような観点で受賞作品を見てみますと、さまざまな自然の要素に対して謙虚であれということ、そして想像力と洞察力、実践力を働かせてみよう、という意味やメッセージが創り手の胸の奥から放たれていることを強く感じます。

金賞に輝きました奥寺萌さんの作品は[警鐘の視点]と題して、やみくもに自然を壊してしまうことの愚かさを、ストレートに訴えています。鹿の眼に映っている人間の行為が、いつまでも残さなければならない、かけがえのない佇まいを台無しにしてしまうのだ、という主張が明確に込められています。

また銀賞・阿部彩海さんの[はなみる地球]は、あざやかで生命力溢れ、希望に満ちた大地を想う素直でシンプルな気持ちを、おおらかな作風で表現しています。降り注ぐ光、そして咲き誇るヒマワリがその象徴として表されています。

銅賞の小田島凌一さんの[激変する氷の大自然]という作品は、温暖化対策はもう待ったなし。どうにかして対策を講じなければ、と危機意識を呼び覚まします。わずかばかり残された水に立ちすくむ白クマの姿は、気候変動に伴う危機的な状況に瀕する、すべての存在を暗示するかのようです。

これらの作品に共通するのは、社会の状況へアンテナを巡らせて、それを自分なりに受け止めて解釈し、デザインという視覚表現につなげていく構想のチカラであり、テーマ性の確かさです。いうなればコンセプトを大切にすることが、デザインのクオリティ、ひいては人の心や社会を動かすメッセージに結びつくと思われません。

ご紹介させていただきましたように、岩手のデザイン界では、ベテランはもとより、若い世代の方々の台頭も活性化へのエネルギーとして顕著になってきたと感じています。これから、どんな才能が開き、どんな話題作が生み出されていくのか。皆さまからも、大いに関心を寄せていただければと思っております。

そして、これからも岩手デザイナー協会への御理解・御支援を重ねて、お願い申し上げます。御清聴ありがとうございました。

## 環境保全ポスター 経緯

環境保全ポスターは1983年（昭和58年）、岩手芸術祭美術展デザイン部門、特別課題作「ゴミゼロ運動ポスター」（盛岡ロータリークラブ協賛）の公募からスタートした。1987年（昭和62年）からは課題テーマの視野をさらに広げ「地球環境対策全般」とし、1990年（平成2年）より、最優秀作品を印刷、配布し現在（23作品）に至っている。

- Big Friday より抜粋 -

## 例会報告

第32回例会  
平成25年3月8日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 藤村文昭会長
- ・ソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・村上由美子様（岩手デザイナー協会 会長）、奥寺 萌様（環境保

全ポスター金賞受賞者）、阿部彩海様（同銀賞受賞者）、小田島凌一様（同銅賞受賞者）。

- ・誕生祝 加藤正幸君。
- ・結婚祝 盛田洋太郎、岩野法光君。
- ・会長報告 藤村文昭会長
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事

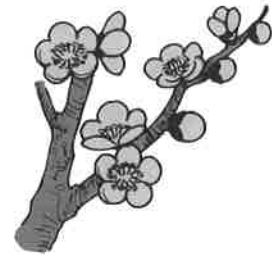
### 【ニコニコBOX】

- ◆山岸晃浩君…株式会社市場は今日も  
活況で日経平均株価はリーマン

ショック直前の価格を上回りました。皆様の資産が増えることにニコニコします。

### ●メーキャップ

盛岡北R.C.=福田（荘）、大見山君。盛岡西R.C.=村井、吉田（幸）君。盛岡東R.C.=桑田君。盛岡西北R.C.=福田（泰）、鹿野君。盛岡滝ノ沢R.C.=星・白石君。クラブ委員会=岩野・坂本・高橋君。



出席報告 ■ 会員数 /66名 ■ 出席数 /36名 ■ 出席率 /61.7% ■ 前々回修正出席率 /100%

### プログラムの お知らせ

- ・3月15日(金) 新入卓話 中山哲克 会員  
【省エネ提案の事例紹介】
- 22日(金) 新入卓話 金子真也 会員
- 29日(金) ゲスト卓話 真山重博 様
- ・4月 5日(金) 新入会員卓話 高柳一郎 会員
- 12日(金) 会員卓話 熊谷昭三 会員
- 19日(金) ゲスト卓話 尾形さゆり様・佐藤久美子様
- 25日(木) 観桜会（26日例会変更）

●本号編集担当 / 福田 泰司

●次号編集担当 / 谷藤 和彦